

独立行政法人 福祉医療機構
平成26年度社会福祉振興助成事業



「えがお・むすぶ・プロジェクト」

報 告 書



認定NPO法人

日本セラピューティック・ケア協会

Japan Therapeutic Care Association

事業の背景と目的

手のぬくもりは 心のぬくもり

手のひらのぬくもりで心身のストレスを軽減。

いつでもどこでも手軽に行えるのが、セラピューティック・ケアです。

児童虐待の発生件数は、警察庁の発表によれば2013年に史上最多となっており、児童虐待の未然防止はますます重要な課題となっています。親子のスキンシップの重要性が近年見直されている理由には、親子がふれあうことで相互の愛情や信頼が深まり、親子の絆が強くなることで虐待が起こりにくくなることへの期待もあると言えるでしょう。

しかし、一般的なベビーマッサージは着衣を脱がせて裸にし、アロマオイルなどをすりこみながら行うものが多く、衣服の着脱の煩雑さやオイルによるアレルギーのリスク、経費などの点から、育児中の母親が実際に日常に取り入れるにはハードルが高いのが実情です。また、虐待を受けた子供の年齢構成を見ると、0歳～小学校入学前が43.5%（厚生労働省「児童虐待の現状」より）と半数近くを占めているに関わらず、ほとんどのマッサージが0歳児のみを対象にしており、それ以上の年齢の子どもには対応できていません。

さらに、児童虐待の加害者は母親が約6割を占めており、厚生労働省はその要因として、核家族化や少子化の影響から来る未経験や未熟さ等、母親をとりまく社会環境の変化に加え、育児中のストレス等、母親のメンタルヘルスの問題をあげています。虐待を未然に防止するためには、親子のスキンシップだけでなく、母親のメンタルヘルスケアも合わせて行っていく必要があるのです。



しかし、核家族化が進み地域コミュニティが崩壊した現在、誰かに相談したくても気軽に相談できる相手がいないか、あるいは、悩みの一つひとつがささやかすぎないように思えて相談するのを遠慮したり、「こんな自分は母親失格ではないか」といった罪悪感や不安から悩みを打ち明けるのをためらったりなど、問題を抱えている母親ほど、育児相談やカウンセリングなど、専門家による、言葉を介したケアを受けにくいのが実情です。

そういった母親には、言葉を介さずに孤独感や不安を受け止め、心理的ストレスを軽減してくれる方法を提供することも必要です。また、どこか特別な場所に行かなくては受けられないケアではなく、常に近くにいて心を許せる相手から必要に応じて継続的に届けられるケアがより望ましいのは言うまでもありません。



したがって、増え続ける児童虐待件数に歯止めをかけるには、安心安全で、短時間で行えて効果があり、いつでもどこでもできるために家庭に取り入れやすく、乳児期から未就学児童まで幅広い年齢の子どもに行える親子のスキンシップのツールと、配偶者や親族など子育て中の母親にとって身近な存在の人間が修得して日常に行える、手軽で容易な母親のメンタルケアのツールが求められていると言えます。

こうした背景を受け、当協会では、児童虐待の未然防止を目的として、衣服の着脱も薬剤も不要で手軽にスキンシップの効果が得られ、アレルギーや費用などのリスクもない、安心安全で、いつでもどこでもできる親子のスキンシップのツール“インファントセラピー”と、配偶者や親族が修得して日常的に母親に短時間で手軽に行えるメンタルケアであり、“ノンバーバル・コミュニケーション”（言葉を用いないコミュニケーション）法であるセラピューティック・ケアのワークショップ、さらにワークショップを行うセラピストの養成を実施しました。

団体概況

日本セラピューティック・ケア協会とは

当協会は、セラピューティック・ケアを通じて心のケアを行う活動を行っている認定NPO法人です。セラピューティック・ケアは、英国赤十字社が高齢者介護施設や病院（緩和ケア病棟）・ホスピスを訪問するボランティアのために考案したメンタルケアのスキルで、優しいタッチで肩や首、手などをなでることで精神的な安らぎや安心感をもたらし、施術する人とされる人との間に信頼感や愛情を生じさせます。

セラピューティック・ケアの大きな特徴として、衣服の着脱や薬剤・器材が不要で、いつでもどこでも誰にでも短時間で簡単にでき、医療の専門家ではない一般人のボランティアのためのツールとして考案されたためにリスクがなく、しかも効果が上がる点があります。

また、性別や年齢を問わず行えるケアとして、2008年より、セラピューティック・ケアの理論とスキルに基づいた親子のふれあいのためのツール、インファントセラピーを助産師監修のもとに考案し、子育て支援にも積極的に取り組んできました。

インファントセラピーはセラピューティック・ケア同様、オイルなどの薬剤を使わず着衣の上から優しくなでるため、金銭的負担もアレルギーや怪我等のリスクもなく手軽で安心安全で、生後まもなくから就学前までと対象年齢が広いことが特徴です。



1999年英国赤十字社訪問 セラピューティック・ケアの日本での普及を託される（前列右：当協会理事長）

事業概要

WAM助成により3つの事業を行いました

①子育て支援講演開催

②ファミリーイベントの定期的な実施

③インファントセラピスト養成講座によるセラピスト養成



◀当事業用にWAM助成金でベビー人形を12体購入、目印として胸に「WAM」のワッペンをつけた。「ワムちゃん」と呼ばれて、講師からも参加したファミリー（特に女児）からも可愛がられた。



事業実績① 子育て支援講演

「今、求められている“ふれあい”を考える
～ふれない子育ての弊害～」開催

子育て中の母親の心のケアや親子のふれあいの大切さをテーマに、子育て中の親や保育従事者の啓蒙と意識向上に努め、児童虐待の未然防止につなげることを目的に開催。会場では、認知度向上のため、ファミリーイベントやインファントセラピーの資料も配布しました。

【対 象】一般ファミリー、保育士・助産師等保育の専門職他、子育て支援に関心のある方



講演内容

当事業の趣旨にのっとり、山口創氏と橋本武夫氏をお招きし、それぞれの立場から、「児童虐待の未然防止のためには家族のふれあいが大切である」ことをお話いただく。最後に当協会理事長の秋吉から、ふれあいを実践するための具体的な方法としてのファミリーバージョンおよびインファントセラピーを紹介しました。

講演①「子どもの脳は肌にある
～なぜふれあいが大切か～」
(質疑応答含め60分)

“タッチ”研究の第一人者
桜美林大学教授
山口 創 氏

学術的な分野の
専門家の立場から

セラピューティック・ケアとインファントセラピーの
デモンストレーションおよび体験
(開演前30分と休憩20分)

インファントセラピーのデモンストレーション



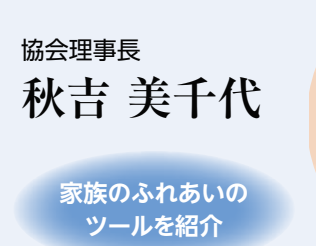
セラピューティック・ケア体験

講演②「Hug(ふれ愛)は百薬の長なり」
(質疑応答含め60分)

育児支援のスペシャリスト

社会福祉法人若楠・
若楠児童発達支援センター長
橋本 武夫 氏

実践的な分野の
専門家の立場から

講演③「子育ては親育て
～家族のふれあいで心豊かな子育てを～」
(質疑応答含め30分)

協会理事長
秋吉 美千代

家族のふれあいの
ツールを紹介



- 日 時／平成26年11月30日(日) 14:00～17:00
- 会 場／大名MKホール(福岡市中央区大名1-3-40 オリエンタルHMKビルB1F)
- 参 加 費／500円 *ご家族で参加の場合は1家族500円

- 告知方法／56の関係各所およびイベント会場に配布・WAMNET掲載(11月1日～)・福岡市NPOボランティアセンターのメールマガジン記載(11月5日)・11月28日付 西日本新聞朝刊掲載・協会HPおよびfacebook掲載



西日本新聞にて
告知が掲載されました

当日の概況

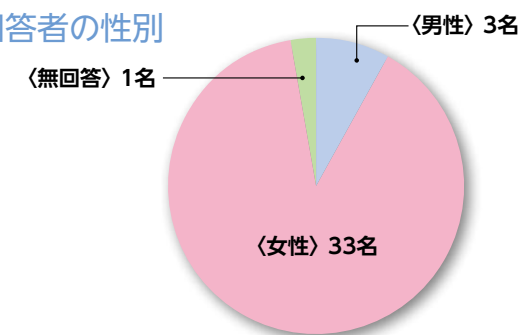
- 当日天候／荒天(大雨)
- 来場人数／85名(女性74名・男性11名)

アンケート集計結果と考察

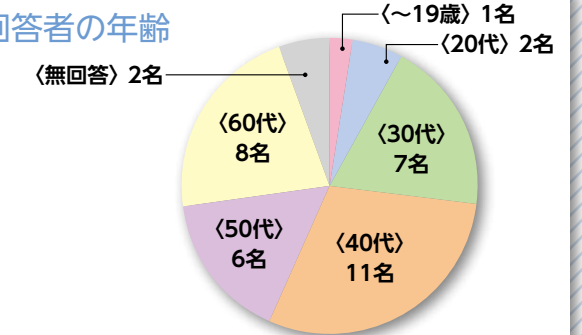
回収枚数 37枚

参加者について

Q 回答者の性別



Q 回答者の年齢

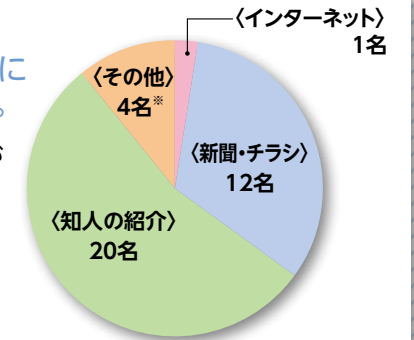


Q どなたと一緒に来られましたか。

一人	14名
友人	8名
家族	9名
無回答	6名

Q この講演を
どこでお知りになりましたか。

※無回答1名を含む



広告物・広告方法の検討が必要

- ・出来る限りの関係各所やイベントにて配布したが、にも関わらず「講演会があることを知らなかった。もっと早く知っていたら行きたかった」という声が寄せられたため、今後は新聞広告等も利用し、広く知らせる方法を検討したい。
- ・印刷したチラシは無駄のないよう送り先や枚数を選んで送ったが、それでも不足し、大量のカラーコピーとなったため、少なく見積もっても500枚は印刷が必要であった。

参加動機

Q この講演に参加した理由・参加したいと思ったきっかけは何ですか。※複数回答可

山口創先生の講演	14名
橋本武夫先生の講演	18名
秋吉理事長の講演	12名
講演のテーマ	22名
その他 ※無回答3名含む	4名

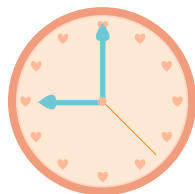
多くの人の関心をあつめた
テーマ・講師

テーマや講師に引かれてきたという方が33名と、有効回答の89.1%を占めており、選定したテーマや講師は適切であったと言える。

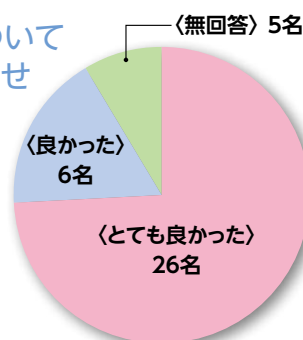
講演について

Q 講演会の所要時間は適切でしたか。

〈長い〉 1名
 〈ちょうど良い〉 26名
 〈無回答〉 10名



Q 講演内容について感想をお聞かせください。



科学的な見地からの“ふれあい”

山口創氏からは、インファントセラピスト養成講座のテキストの執筆者のおひとりとして、さまざまな科学的検証を通し、身体感覚・皮膚感覚や早期の身体接触が豊かな心を育むために不可欠であることをお話しいただいた。

“ふれあい”の効果を実証

橋本武夫氏からは、長年の新生児医療の第一線での経験をもとに、豊富な事例をあげながら、HUG（抱きしめること）が小さな命にもたらす力について、お話しいただいた。参加者の中には、橋本先生が当時勤務されていた聖マリア病院で未熟児で生まれたという親子がおり、まさに生き証人となった。

「とても良かった」「良かった」が86.5%

参加理由が無回答の方のなかには、「きっかけはお声をかけていただいたことでしたが、来て良かったと思っています」と書いてくださった方もあった。

実演でより分かりやすく

休憩時間に、家族で継続してふれあうためのツールであるファミリーバージョンのデモンストレーションと、今年度よりスタートした協会の新事業「インファントセラピスト養成講座」第一期生によるインファントセラピーのデモンストレーションを行った。

ふれられることの心地よさや効果を体感していただくために、併設会場にて、開演前と休憩時間に参加者向けのセラピューティック・ケア無料体験を実施した。



Q 講演の感想やご意見をお書きください。※自由記述

“ふれあい”の大切さを学んだ

- ふれ愛の大切さについて学ぶ事ができました。HUG…言葉で伝えきれない、ただ黙って抱くだけで良いふれ愛の大切さを学んだ。
- 山口先生・橋本先生・秋吉先生、それぞれの経験からのお話をお聞きし、ふれることの大切さを改めて知ることができました。とても貴重な1日となりました。
- 3つの講演を通して、手の温もり、HUG、愛情、ふれあうことの大切さを改めて実感することができ、本当に良かったです。場所が少しわかりにくかったので、駅近くだとより良いと思いました。
- どの子どもも、愛し、愛されるために生まれて来るのだと思います。子どもは、自分が愛されていると実感することが大切であるということに同感します。親も子もオキシシンがあふれた日々を過ごせるよう毎日のケアに生かしていきたいと思います。インファントセラピーの実践も良かったです。
- 楽しくお話を伺うことができ、人とのぬくもりが心を癒していくと再認識しました。
- HUG、スキンシップの本当の意味・大切さが分かりました。今後も、そのことを心に置いて、子どもたちとかわっていききたいです。



科学的・医学的な側面からの“ふれあいの大切さ”に納得

- 子育てしている方もそうでない方も、どちらも興味を持ちやすい内容だったと思います。私は医療に従事しているため、生理学の部分も含めてお話していただき、とても納得できる根拠があり興味を持ちました。誰かに触れることでその人を癒やすだけでなく、自分が一番癒されることを知り、積極的にHUG、触れる機会を作っていきたいと思いました。
- 先生方のお話がとてもわかりやすかった。もっと症例を伺いたかった。またその効果的な現場での活用法も聞きたい。
- 今、娘が経験した不登校を勉強していて、12日から、不登校サポーターとして活動予定です。自閉症や発達障害と言われる子どもたちが多く学校に行けない現状を打破するヒントを学術的に教えていただき、とても有意義な良い講演でした。新生児や児童だけでなく、10代後半の子共たちにもセラピューティック・ケアは有意義なアクションだと思います。
- ふれあうことの大切さを学ばせていただきました。また医学的な分野での研究や現場での成果を聞いたこと、大変嬉しく思いました。

これからの活動に活かしていきたい

- 保育の仕事をしていましたが、何かやり残し感がありました。久しぶりに橋本先生の講演を拝聴し、まだ大丈夫!と感ずることができた。山口先生、ありがとうございます。セラピューティック・ケアを学び、役に立ちたいと思います。
- 父親が子育てに関わることで社会性まで形成されることがわかり、自分の認識の甘さが確認できて良かった。
- ふれることの大切さがよく分かるすばらしい講演でした。今回学んだことを将来役立てられたらいいなと思いました。
- 遠い子育ての時期を思い出すと、時間を巻き戻してやり直したい!!と切に思いました。過去は変えられませんが…悲しいですね。私なりの「愛」をたくさん子どもたちに伝えたいつもりでしたが、子どもには届いてなかったかも? 自己満足だったかも?
- 講演はどれもレベルが高く、非常に勉強になりました。同じ内容の講演があれば、保健師・保育士の友人をぜひ誘いたいと思いました。
- 子どもも大きくなり、何の資格も持っていない一般人ですが、すごく良いお話が聞けてよかったです。
- 私も仕事上、子育ての講座をしているので、愛着のところがとても参考になりました。
- 私の心の中に深く響いたことが多々ありました。今後活かしていきたいと思います。



会場からは積極的に質問をいただきました



その他 反省・気づき

開催場所選びに課題

- 当日は朝から激しい雨が降り、車椅子の方など、予約をされていたが天候のために参加を断念された方が15名いらっしゃった。しかし、遠くは京都や宮崎、長崎からたくさんの方々に足を運んでいただき、こじんまりした会場内は満員で暑いほどであった。好天で場所がわかりやすければ、来場率はさらに上がったと思われる。
- 講演者とのスケジュール調整の結果、会場が変更になったが、アクセスを最優先して代替会場を決定したにも関わらず、外観がわかりづらく、悪天候もあり土地勘のない人たちの中には当日たどりつけなかった人も何名かいた。

参加しやすい会場づくりが◎

- 子ども連れの参加者のために授乳・オムツ交換スペースとして隣接するスペースを用意したことにより、休憩時間の施術体験の空間として、また講演中幼児がぐずりだした時の避難場所としても活用ができた。また無料体験時も、茶香炉・ヒーリングミュージックの効果をあげながら、ゆったりと落ち着いて受けていただくことができた。

事業実績② ファミリーイベント

えがお・むすぶ・プロジェクト

「ふれあいマッサージ」ワークショップ

親子のふれあいのワークショップを通じて施術を覚えてもらい、家庭で継続して行ってもらうことで、子育て中の保護者(特に母親)の心のケアと、児童虐待の未然防止につなげる。

【対象】幼児～小学校低学年の子どもを持つファミリー

63組のファミリー
計130名が参加

参加費
無料

イベント内容

夫婦・家族でふれあうことの心地よさや大切さを体感し、「ネック&ショルダーケア ファミリーバージョン」と「インファントセラピー」を覚えていただきました。また毎回楽しい企画をセットし、気軽に参加していただける雰囲気づくりを工夫しました。

※メンタルケアのツールであるセラピューティック・ケアのネック&ショルダーケアを、初心者でもすぐにできるように簡略化した、家族でふれあうためのツール

プログラム一例

♪ オープニング(ごあいさつ)

♪ 企画

カラーセラピー・パステル和アート・折り紙・わらべうたなど

♪ 家族のふれあいマッサージ

(ファミリーバージョン&腰のケア)

パパ&ママ、ママ友同士での

ワークショップ

♪ インファントセラピー

パパ・ママ&ベビー・キッズの

ワークショップ

～ 休憩 ～

♪ おさらい・育児相談

♪ ごあいさつ

パパから
ママへママから
ベビーへ参加者には
ミニテキストを
プレゼント
(WAM助成金で作成)

●実施期間／2014年6月15日～2015年3月15日 実施回数:計9回

●実施詳細／当初予定は7回だったが、園からの要望やインファントセラピスト養成講座の受講生のための実習の場が必要という判断から2回追加し、計9回実施(イレギュラーのため第8回・第9回としています)。

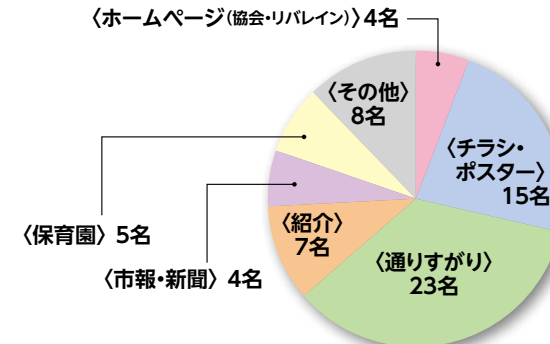
	日時	会場	企画／講師
第1回	6月15日(日) 14:00～16:00	博多 養生処(福岡県福岡市)	アートバルーン／太田紀美子さん
第2回	7月26日(土) 14:00～16:00	博多 養生処(福岡県福岡市)	カラーセラピー／吉村瞳さん
第3回	8月24日(日) 10:00～12:00	プラムカルコア太宰府(福岡県太宰府市)	カラーセラピー／吉村瞳さん
第4回※	9月21日(日) 14:00～16:00	NPO法人まごころサービス福島センター うららか広場(福島県福島市)	わらべうたで遊ぼう／秋吉美千代
第5回	11月15日(土) 14:00～16:00	博多養生処(福岡県福岡市)	折り紙ミニレッスン／豊浦貞子さん
第6回	1月24日(土) 14:00～16:00	博多養生処(福岡県福岡市)	カラーセラピー／吉村瞳さん
第7回	3月15日(日) 14:00～16:00	博多養生処(福岡県福岡市)	パステル和(NAGOMI)アート／渡邊由紀子さん
第8回	3月 4日(水) 11:00～12:00	みどりヶ丘保育園(佐賀県鳥栖市)	なし
第9回	3月14日(土) 10:00～12:00	ニューミヤコホテル1Fホール(栃木県足利市)	カラーセラピー／春山裕子さん

※第4回についてはP.13で特集しています

アンケート集計結果と考察

参加動機

Q このイベントをどこでお知りになりましたか？

イベントを
振り返って

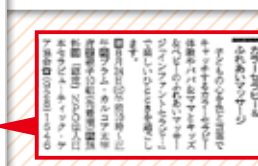
若いママ世代へのPR強化が必要

告知は、イベント時のチラシ配布・協会やリバレインのHP掲載が中心。今後は子育てサークルや、ママ世代に利用者の多いSNS(ツイッター、LINE等)の利用を考えたい。

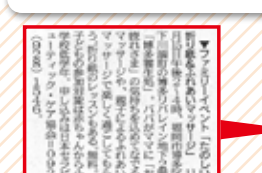
また申込み方法を電話かFAXにしていたが、ママ世代が申し込みやすいよう、今後は携帯やスマートフォンから申し込めるシステムを利用したい。

西日本新聞、太宰府市広報、Facebook等で
当イベントをご紹介いただきました

太宰府市の広報
(2014年8月1日号)に
8月24日開催分の告知が
掲載されました。



西日本新聞朝刊
(2014年10月31日付)に
11月15日開催分の
告知が掲載されました。



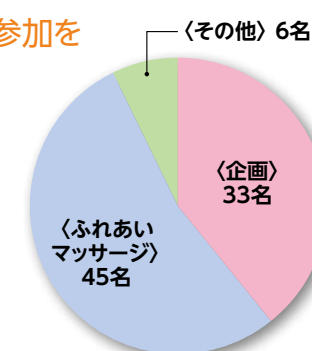
第1回・2回・5回・6回・7回
の会場にお借りした
「博多養生処」の
Facebook上で
当イベントを
ご紹介いただきました。

博多養生処facebookページ
<https://ja-jp.facebook.com/yojyosho.hakata2013>



博多リバレイン
HP「リバカル」コーナーの
イベントレポートに
取り上げていただきました。

リバカルfacebookページ
<https://ja-jp.facebook.com/riverainculture>

Q イベントへの参加を決められたきっかけは何でしたか？
※複数回答可イベントを
振り返って

様々な企画で“きっかけ”づくり

有効回答の39.3パーセントの方が企画に魅力を感じて来場されており、きっかけづくりとしてセットしたのは適切だったと言える。

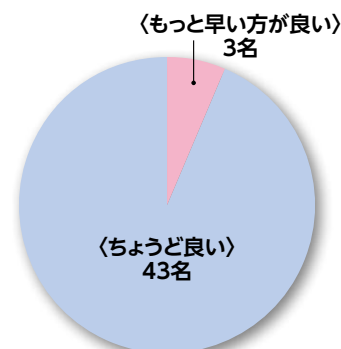
また、企画とふれあいマッサージの両方と答えた方も14名いらっしゃった。



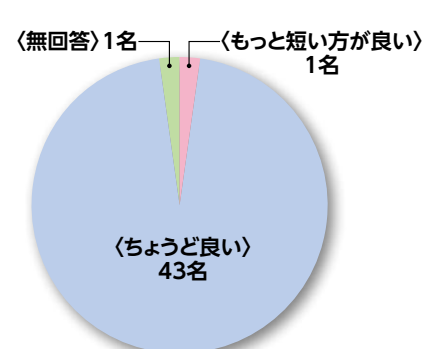
参加者の感想

Q 実際に参加された感想をお聞かせください。

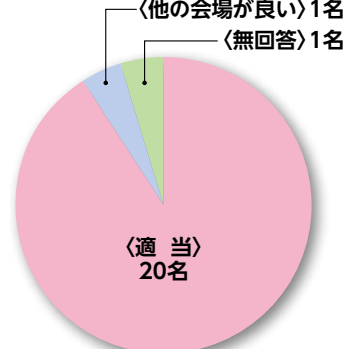
●実施時間帯



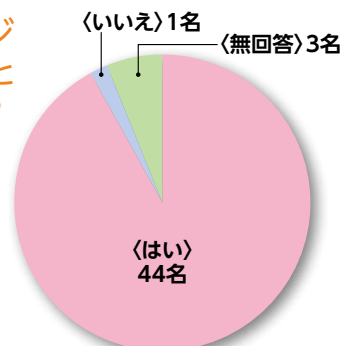
●所要時間



●開催場所



Q 家でもマッサージを続けてみようと思われましたか？



92%が「家庭でも続けたい」

回答者の92パーセントが「はい」と答えていらっしゃる、このワークショップの目的である“簡単で効果のあるふれあいマッサージを覚えてもらい、家庭でも続けていただく”は達成されたとと言える。

Q 家庭でも続けてみようと思った理由は？

とにかく気持ちいい!!

- 疲れが取れて、気持ち良く、簡単だったので
- マッサージしてもらって気持ち良かったのと、自分も気持ちよくなったので

忙しい日常にゆったりとした時間を

- のんびりとした時間をすごせそうだから
- いつも忙しくしているので、この時はゆっくりできました



パパからママへ
ママからパパへ
キッズからパパ・ママへ

パパでもママでも子どもでも誰でもできるのがセラピューティック・ケアです



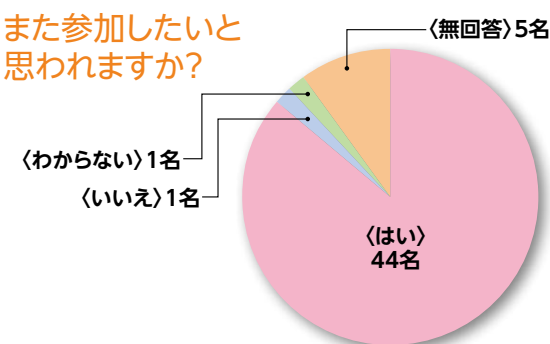
家族のふれあいに

- 大切な存在ということを改めて感じるができるから
- 子どもが気持ち良くなって寝てたから
- 主人が腰痛持ちなので、簡単なマッサージを教えてもらったので
- スキンシップの時間ができるので、家でも続けたいです
- 家族のコミュニケーションになりそう
- 家族全員の気持ちが和らぐようだから
- 主人と娘が喜んでくれそう
- ゆっくり会話をしながらできそうな感じがしたので
- スキンシップの時間ができるので、家でも続けたいです
- 母子のふれあいに



参加者の感想

Q また参加したいと思われますか？

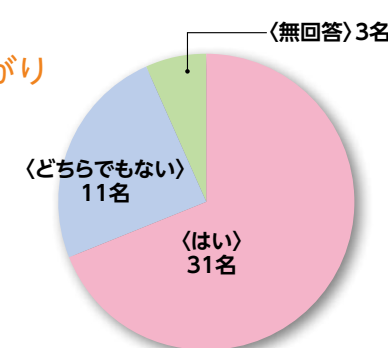


86.3%が「また参加したい」

回答者の86.3パーセントが「はい」と答えており、内容が適切であり満足していただけと言える。



Q 悩みごとの解決につながりそうですか？



個別に対応できる態勢づくりが必要

- 「どちらでもない」と答えられたうち6名は、第8回開催時の参加者。この回は事前予約が12組だったため、実習生含めセラピスト5名で訪問したが、実際には19組39名のファミリーが来場され、お一人おひとりへの十分な対応ができなかった。
- 反面、セラピスト5名で8組17名のファミリーに対応した第4回開催分は、お一人おひとりにじっくりと向き合い、お話を聞く時間が取れたため、8組全員が「はい」と答えている。
- このことから、できる限り個別に対応できる態勢づくりが必要であることがわかる。
- 「どちらでもない」と答えられた方のうちの2名は足利でのイベントの参加者で、その方たちの悩みは「離乳食について」であった。今後は、子どもの対象年齢をある程度絞り、離乳食クッキング等、年齢別の企画もセットしていきたい。

Q 家族のスキンシップに役立ちそうですか？
※質問対象者15名

〈はい〉 15名(全員)
〈いいえ〉 0名



ふれあうことでみんな笑顔になります

役立ちそうな理由は...

- 手の温かさを伝えられるから
- 相手にマッサージしてあげることで、コミュニケーションのきっかけになりそう
- 癒されそうなので
- インファントセラピーをしながら話しかけて情緒が育っていければと思った
- 時間の空いたときに子どもたち・パパにしていあげたい
- もっとたくさん触れ合いたいと思う

参加者より 寄せられた声

家族のふれあいマッサージ

家庭でも続けたい

癒されました。
家で子どもにしてあげます

練習や実践することで
家に帰ってからも
役に立ちそうです

触れられるだけでも
とても気持ち良いので
娘や旦那にももっと触れてあげて
スキンシップの時間やゆったりできる時間を
作ってあげたいと思いました

疲れが取れて気持ち良く簡単だったので
続けてみようと思います



手でふれて
スキンシップすることが
とても大事だと思っていたが
やり方がわからず参加しました。
これから家でもできそうで
楽しかったです

体験もでき、家で行える
セラピーも教えていただけ
リラックスできました

ふれられていると
気持ちが落ち着きました

今までのマッサージとは違って
身体だけでなく心の角も
ほぐされる感じがよかった

マッサージを通じて
心の安定を図れそうです

みんな優しく
リラックスできた

手が温かくて
とても気持ちが
良かったです

ふれることが人との関係を
良くすることを学び
体験できたので良かった

ふれあうことは大事だとわかってはいたけれど
実際さわられると自分の筋肉が
緊張しているのが分かって
リラックスしようと思いました



インファントセラピー

手軽にいつでも

子どもを裸にすることもなく
オイルなども使わず手軽に
いつでもできるのでさっそく
家でもやっていきたいと思っています

雑誌でマッサージのやり方を見ても
よくわからなかったのですが
実際やって見せてもらったら分かりやすく
子どもも気持ち良さそうで嬉しかったです

触れ合うだけで落ち着く

ゆっくり触れ合う時間が
できよかったです。
おうちでもやっていきます!!



インファントセラピーで
ファミリーの絆を深めたいと思います

赤ちゃんも
落ち着いてきた感じがした

マッサージの後
子どもが気持ち良さそう
だったので来て良かったです



イベントを
振り返って

子どもも大人も楽しく施術

- ・インファント用のベビー人形は子どもさんが気に入って放さな
かったり、自分も見様見真似で人形にインファントセラピーを施術
したりするため、施術者より1体ないし2体多めに人形を用意した。
- ・「家に帰ってから子どもにしてあげたいから」と、仕事の合間に、
大人一人で参加され、覚えて帰られた方もあった。



同時開催の企画

無料なのに、アートバルーンもマッサージも
楽しめて大変気持ち良かったです

カラーセラピーがなんとなく
当たっているような気がして
興味を持った

現在の
子どもの心が
わかった

お絵描きやパステル和アート
ふれあいマッサージで
本当に安らぎとゆったりした時間が
できて良かったです

イベントを
振り返って

カラーセラピーは特に人気が高く、目指して
来られる方も多かった。内容的にも、セラピスト
とじっくり話しこまれる方が少なくなく、育
児相談を兼ねていた。カラーセラピーで子
どもの傾向を知り、ふれあいマッサージやイン
ファントセラピーのワークショップという流れ
は非常に良く、今後も継続していきたい。



その他 反省・気づき

運営の工夫で満足度アップを目指す

- 事前にプログラムを作っていたが、通りすがりに途中から参加の方が多いため、プログラムにこだわらず、臨機応変に進行した。
- 音楽は、ウェルカムミュージックとして楽しくにぎやかなCDと、施術の効果を高めるための静かなCDの二つを使用した。
- WAM助成金で購入したポラロイドカメラを当日持参、会場で撮影して参加者にプレゼントするとたいへん喜ばれた。



福島にてイベント開催(2014年9月21日)

第4回 ファミリーイベント

「わらべうたで遊ぼう&ふれあいマッサージ」実施

「NPO法人まごころサービス福島センター」のご協力を得て、同センター内にある「こども緊急サポートネットワークふくしま」のイベントスペース・うらか広場にて開催しました。

イベント内容

わらべうた・ふれあいマッサージ・育児相談

ワークショップ後、飲み物を飲みながらゆっくりと参加者同士の交流や育児相談の時間をもちました



イベントを振り返って



被災地ならではの悩み、一人ひとりに向き合うことが大切

当日の参加は8組17名。募集は30組100名としていたが、実際に開催してみると、被災地ならではの悩みを抱えている方が多く、一人ひとりの参加者にしっかりと向き合うためには、結果的には適正な参加人数であった。

保育の現場に活かしたい

参加者のうち2名は保育関係者で、職場で活かしたいということで参加。職場には「自分の子どもが可愛いと思えず、抱っこできない」という母親がいるとのこと、どういう風に対処していけばよいかという相談も受けた。

母親の心のケアがより一層必要

こども緊急ネットワークふくしまの職員より、「福島では大気中の放射能や植物汚染など、他の地区とは違う不安を日々抱えながら子育てしている母親が多く、子ども以上に親がナーバスになり、一般的な母親に比べ大きなストレスを抱えているので、母親の心のケアであるふれあいマッサージがセットされている点がよい」というご意見をいただいた。

マッサージは育児ストレス軽減に効果あり

同ネットワークでは時々、曹洞宗東日本大震災災害対策本部による、育児ストレス軽減を目的とした小児鍼・鍼灸マッサージを受け入れ、情緒の安定等の効果が出ている例があり、「当イベントも今回1回でなく、何回も続けていくことでさらに効果が上がるのではないかと思います。今後も定期的に開催してほしい」という依頼を受けた。



WAM助成金にてチラシを100枚作成。追加分200枚を含め290枚を同ネットワークに送付、約10か所の関係各所に配布していただいた。



▲9月20日付福島民報に掲載されました。



フォローアップ&交流会開催

2014年12月14日(日) 13:30~16:30 警固神社 春庭(福岡市)

第5回までの参加者を主な対象に、フォローアップ(おさらい)と交流のイベントを開催。施術の体験で触れられる心地良さを知っていただいたり、ハンカチを使った親子キャッチボールなどで親子で一緒に遊んで交流を深めるとともに、マッサージのおさらいをしました。

親子10組
計25名が参加

予約の方のほか、隣接する公園で遊んでいた親子連れも参加。中には障害のあるお子さんや在日外国人の親子もいらっしやったが、楽しく交流できた。

イベント内容

- 親子ふれあい遊び(講師:大久保優美子さん)
- セラピューティック・ケア(フルバージョン)体験
- ふれあいマッサージ&インファントセラピーおさらい
- お楽しみ抽選会
- 育児相談



Q 交流会に参加したきっかけは何でしたか?

マッサージのおさらいがしたかったから	1名
ふれあいマッサージに興味を持ったから	4名
子育て中の親子との交流を期待して	2名
その他(育児相談がしたかったから...)	1名
その他(育児相談がしたかったから...)	4名

Q 悩みごとの解決につながりそうですか?

はい	7名
いいえ	2名
どちらともいえない	1名

Q 本日のイベント内容にご満足いただけましたか?

とても満足	3名
満足	6名
やや不満足	1名
(理由:わらべうたを習いたかったから)	
不満足	0名

Q 家でもマッサージを続けたいと思われましたか?

はい	10名(全員)
いいえ	0名

寄せられた声より

- スカーフを使った親子ふれあい遊びが楽しかった
- もともとベビーマッサージに興味があり本を見てやってみたがよくわからなかったの、講習会などに参加したいと思っていた。ふれあいコミュニケーションを取りたいです。
- 時間を作ってマッサージを続けていきたい
- 子どもはもちろん自分もマッサージしてもらい良かった。パパにもしてあげたいと思いました。



事業実績 ③ 人材育成

インファントセラピスト養成講座
による人材育成

これまではインストラクター以上の協会会員しかインファントセラピーの施術は行えませんでした。安心安全で容易で効果があり、現場で取り入れやすいツールであることが子育て支援センターの職員や保育士等に評価され、自分たちもインファントセラピーを修得し、現場で活用したいという要望が寄せられるようになったため、今年度より新たな資格としてインファントセラピストを設定し、必要なカリキュラムや専用テキストを作り、人材育成を行いました。

【実施期間】2014年6月29日～2015年3月22日 実施回数:計7回

【対象】保育士・助産師・幼稚園教諭・保健師等、保育に関する国家資格を有する方
および産科・婦人科にて実務経験3年以上の看護師

【養成目的】保育従事者がそれぞれの勤務先や関連施設で施術できるようになることで、広域的かつ継続してケアを届けられる態勢を作る。



平成26年度インファントセラピスト養成講座実施状況

- 第1回:平成26年6月29日・7月6日
本部事務所(福岡県)
- 第2回:平成26年8月2日・7日
本部事務所/プラムカルコア太宰府(福岡県)
- 第3回:平成27年2月15日・22日
板橋区立企業活性化センター(東京都)
- 【追加開催】
- 第4回:平成26年度12月21日
本部事務所(福岡県) ※2日目は第5回2日目に組み入れ
- 第5回:平成27年1月25日・2月8日
とす市民活動センター会議室(佐賀県)
- 第6回:平成27年2月2日・3日
受講者自宅(北海道)
- 第7回:平成27年3月21日・22日
高知市朝倉鶴来集公民館/百石町4丁目公民館(高知県)

カリキュラム

2時間×4日間コース または 土日2日間の集中コース

- ① 理論および実技9時間の講義と
認定試験(筆記と実技)
セラピューティック・ケア概論
癒し癒されることは
ネック&ショルダーケア
ビギナーバージョン(体験)
インファントセラピー概論
ネック&ショルダーケア
ファミリーバージョン
腰のケア
インファントセラピー



▲WAM助成金により、保育士・助産師が全面的に監修した専用のテキストを作成

- ② 2か所での実習
③ レポート提出

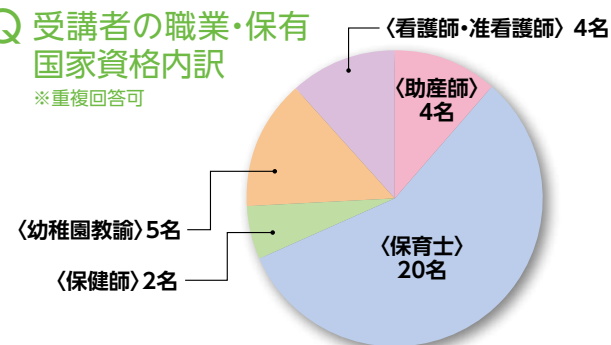
受講者のアンケート集計結果

回答者/27名

受講者について

Q 受講者の職業・保有
国家資格内訳

※重複回答可



受講動機

Q 受講を決められた理由は何ですか? ※自由記述

仕事の中で活かすためのスキルアップに

- 乳幼児に接する仕事をしているので、自分のスキルアップと支援をする方法として興味を持ちました
- インファントセラピーをしっかりマスターして、保育現場で活かしたいと思ったから
- ベビーマッサージより簡単ですぐにできるから
- 母子保健推進員のボランティアに役立てたいと思ったから
- 保育士をしておりませんが、今の子どもたちにスキップが必要だと感じていて、その手立てになればと思いました
- 現在保育している子どもたちを見て、何か出来ることはないかと考えていた所に、紹介していただいて勉強したいと思いました
- 保育士として、親子の心身の癒しやケアができる資格を取得して活用したいと思ったから

インファントセラピーに対する思いに共感

- 理事長のインファントセラピーに対する思いに共感し、自分のやれることで、次世代を担う子どもたちが感情豊かな子に育つようにママ達が多く育児に取り組めるよう支援したいと思いました
- セラピューティック・ケアに出会い、学ぶことで、考え方と魔法のような力にますます魅力を感じたから。大人の癒し、特に子どもを持つ母がもっと生きやすくあれらるようなことをしたいと常々考えていたから

人の役に立ちたい

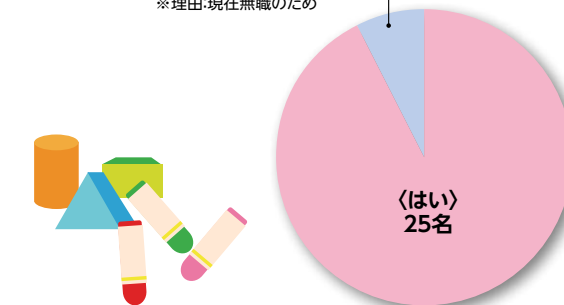
- 触れることの重要性を感じています。子育て中の母子への心のケアとして取り入れたいと考え、退職しましたが勉強したいと思いました
- 手の温もりを伝え、笑顔を増やしたい
- 母親に対してもケアが入っているセラピーなので。現在、自分の周りの人たちが子育て世代ということもあり、家族や初めて育児をする友人や孫を持つ先輩にも伝えられると思ったから
- 自分の将来の夢に役立つと思った。人の役に立ち、子どもが笑顔になる手助けができることで、自分の喜びにもなるから
- 何らかの形でいろんな人の役に立ちたいと思ったから

セラピューティック・ケアを体験して
学びたいと思った

- 4年前にセラピューティック・ケアの講習を受け、その後のフォローアップ講習の時にこの養成講座を知り、子どもから成人まで幅広く学びたく申込みました
- セラピューティック・ケアを体験し、自分自身も癒され、娘と共に学びたいと思い参加
- セラピューティック・ケアと出会い、その無限の可能性が見えてきました。生老病死、何らかの形で役に立ちに立ちたいと思いました。トータルで理解し、実践して行きたいと思います

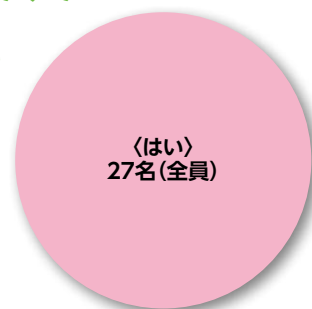
Q 現在、保育の現場で触れることの
重要性を感じていますか?

〈無回答〉2名
※理由:現在無職のため

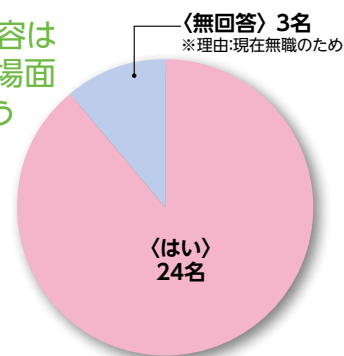


受講の感想

Q 実際に受講してみて
期待した
内容でしたか？



Q 今回の受講内容は
日々の保育の場
面で活用できそ
うですか？



Q 職場での問題解決にどのような形で取り入れていこうと思われませんか？ ※自由記述

コミュニケーションの糸口に

- 保護者の話を聞くときに、聞くだけでなく、気持ちも癒されるように役立てることができたらと思っています
- 子育て中のお母さんがそれぞれに抱えている悩みなどを『話してみようかな』という思いにさせるマジックをこのケアは持っていると思います。悩みなどなんでも相談の場で取り入れ、コミュニケーションの糸口にできればと思います。私の場合は相談業務ですが、いろいろなところで活かせると思います
- お母さんや子どもたちのスキンシップの確かな手段としてやっていきたいです
- ちょっとした時間に、子どもと触れ合う時に取り入れたい
- 実際に子どもたちにインファントセラピーをして子どもの行動変化の経過を見ていこうと思います
- 職場というよりも、いろいろなお母さんがいらっしゃる中で、自分の対応の幅を増やしていきたいと思っています
- 保育の場合、自由遊びの時に(一対一の関わりが必要な子どもを特に)関わっていききたい。親子で参加の場合、ふれあい遊びと一緒に取り入れてみたい
- 学生さん同士で施術しあい、実習中の疲れと緊張を和らげたい
- 社協の障害者の相談のボランティアをしているので、今は、求めている母子に手厚く関わっていききたいと思っています。行政のできないスキマが埋まればと願っています
- まず保育の現場で子どもたちにインファントセラピーを実施していきたい。また子育て講座や行事を通して保護者の方々にも実践し、家庭でも子どもとのスキンシップの手段として取り入れてもらえるようにしたい

子どもだけでなく大人にも、多くの人に伝えたい

- 子どももちろんですが、親へのひとときの安らぎ、セラピューティック・ケアを通してゆったりとした時間を作っていけたらと思います。イベントも友人や家族へもいつでもどこでもできるものなので、多くの方にしってあげたいです
- 子どものことばかり考えていましたが、保護者・保育士にも必要だと今回受講して感じました。時間を見つけて子どもとふれあい、インファントセラピーをしたり、子育て講座に取り入れることができないか提案したり、保育士でも少しでも疲れを癒やすことができたらと思います
- 子育て支援の遊びの広場で、母子の皆さんにケアの紹介・体験を行い、母子保健推進員としての家庭訪問の時にも乳幼児とその保護者の方々に体験していただいています
- 乳児から楽しめるおはなし会グループで、子どもと保護者が集まる現状を、連れてくる目的の保護者を子どもと父・母・おじいちゃん・おばあちゃんとファミリーに広げ、みんなの共通の思い出にしたい
- ストレスを感じたり、疲れていると思うような人がいたら、今回学んだケアで癒して、少しでもリラックスを促すような形で取り入れることができればいいなと思っています。看護の現場でも活用できると思います
- 保育の仕事には就いていないので、イベントや何かの催しに参加したいです
- 現在は仕事をしていますが、ボランティア活動の中で、乳幼児とその保護者を対象とする場合、実践していきたいと思っています



職場全体で勉強して広めていきたい

- 職場全体に伝えていったり、保護者対象で懇談会を開いたりして伝えていこうと思います
- 看護の日のイベント、リラクゼーションに活用したい
- 子育て支援センターなどでのワークショップなどを企画してみたい
- まず、今の担当の子どもたちにしてあげたいと思います。そして、園全体で取り組めるようになればと思います



Q 付け加えるとしたら、どのような受講内容を希望されますか？ ※自由記述

様々なシチュエーションへの対処法

- 「抱っこ型」だけでなく、「ネンネ型」のバージョン。「寝つきの悪い子をネンネさせるときのケアはないでしょうか」とよく聞かれるので
- 寝かせた状態での施術のしかた、障害児や多動児の集団・個別のケアの上手な進め方
- 心を閉ざしてしまっている子の接し方のコツ等、頑固な方との関わり方。ちょっとした手遊び歌も教えてほしい
- 施設でインファントセラピーを行う場合の安全面での配慮についての説明、注意事項(受講する方が保育園勤務とは限らないので)
- 麻痺等、体の不自由な方、寝たきりの方、心身障害や疾患を持つ子どもと保護者への施術

+α(プラスアルファ)の癒しの知識と技術

- 行政や子育てサポートセンター、ママの集まりなどへの紹介や取り組み例、ノウハウ
- 簡単な手遊びなど
- レクレーション、カラーセラピーの基礎知識
- 絵本の読み聞かせ、詩の朗読、1~2曲のミニコンサート
- 心理学の分野(母子関係を中心に)
- スピリチュアルなことも話に取り入れていただければと思います
- レッグケアやハンド&アームケアも知りたい



WAMちゃんを
相手に施術の
練習をしました



実践と波及効果

当養成講座でインファントセラピスト養成を行ったことにより、
実習や受講者自身の実践を通し、さまざまな波及効果が生まれました。

① 実習による効果

資格認定にあたり、WAM助成事業以外の協会のインファントセラピー(ワークショップ)でも実習を受け入れて受講者の実践の機会を提供し、さらに協会のインファントセラピスト指導講師がその場で指導を行いました。



[WAM助成事業以外での実習生受け入れ]

平成26年 8月 3日	大牟田市総合福祉センター きらりフェスタ(福岡県)	1名
8月19日	鳥栖市立保育所 白鳩園おひさま広場(佐賀県)	1名
8月28日	ルンビニ幼稚園(佐賀県)	1名
平成27年 3月 8日	フレスポ鳥栖3.11復興支援イベントAction.4(佐賀県)	1名
3月17日	U保育園(千葉県)	6名
3月24日	鳥栖市立保育所 白鳩園おひさま広場(佐賀県)	2名

② 受講者自身の実践による効果

受講者が勤務先の保育所や幼稚園、子育て支援センターや地域の親子イベント等でインファントセラピーを実践するなど、当事業以外にも多くの方々にケアを届けることができました。

特に、母子保健推進員や児童相談員など、問題を抱えている家庭にパーソナルに接する立場の方が当ケアを修得することにより、個別訪問など協会の事業としてでは入っていけない部分にもケアを届けることができたのは大きな収穫でした。

実施回数／件数(平成27年3月20日まで)：計99回

実施人数(平成27年3月20日まで)：親子 計361名

実施した会場：地域の子育て支援センター、
幼稚園・保育所等(ママサークル含む)、
家庭訪問先家庭、自宅、親子イベント会場



③ 次世代への効果

当事業開始にあたり、新たに「インファントセラピスト」という資格を設定し、カリキュラムを作ったことにより、佐賀県や福岡県の短期大学の保育科の授業の中に取り入れたいという要望もいただきました。現職の保育士や幼稚園教諭の中には、インファントセラピーを習得したいと思っても、仕事をしながらでは受講の時間が取れないという方もありましたが、今後は、保育の専門職を志す学生たちが修得し、現場で即活用できる可能性が出てきました。

振り返りとヒヤリング

インファントセラピスト養成講座受講者を対象に、受講後の活用状況や課題、
今後の実施予定について、実施報告とヒヤリングを行いました。
また遠方などで出席できない受講者には書面にて提出していただきました。

日時 平成26年10月28日(火)・平成27年3月10日(火) 2回実施 **場所** 本部事務所

受講者自身による実践を通しての気づき ※自由記述

大人も子どもも気持ちよく笑顔に

- 眠りが浅くぐずっている0歳女児を抱っこしながら施術すると、スヤスヤ眠られ、ベビーベッドに移動しても大人しく眠って目覚めも良く、「初めてよく眠りました」とママに喜ばれた
- スケジュールにゆとりがあったため、ワークショップの最後にセラピストがお母さんたちにネック&ショルダーケア(ビギナーバージョン)を施術したところ、「大事にされていると感じた」と笑顔になって帰られてよかった
- マッサージによりウンチの出が良くなることはほとんどの子どもに見られた
- 生後1歳までのお子さんとお母さん対象に実施。受講者の勤務先の子育て支援センターでの実施だったため、参加者が施術者や場所に慣れており、また子どもの月齢が近いこともあり、和やかな雰囲気できちんと施術ができた
- 2月に誕生した孫に自宅で施術。黄疸の落ち着いた生後10日目ごろから、眠っているときは前だけ、抱っこしているときは背中やおしりなど、できるときにできる部分だけ行った結果、養成講座で学んだとおり生後間もなくから簡単にできることを実感できた。効果というより、実施する側の心が愛情で充たされた時間だった。学んでいてよかったな〜と実感

様々な子どもとのおだやかなコミュニケーションに

- 自閉傾向が見られる7歳女児と、ダウン症で特別支援学校に通う6歳男児に、それぞれマンツーマンで施術。女児は母親不在で、遊びが持続せず投げる遊びが多く見られた状態だったが、インファントセラピー施術中は体をまかせ、終了後はじっと座りTVを視聴できていた。男児は、ことば音楽療法の後半、集中力の緩和と、触れることにより満足感が見られた。ピアノと歌で『ゆりかごの歌』を流すと、自ら笑顔で施術者の膝に乗ってきた
- 保育士より発達障害の指摘を受け、相談に見えた母親と3歳男児のケースでは、母親の話を傾聴し、男児を自由に遊ばせて状態をよく観察した後に施術した。また保健センターより訪問依頼のあった家庭や個人的に依頼を受けた家庭を訪問し、両親や祖母、子ども(2か月児〜3歳児)に施術を行った。訪問時の母子の様子、養育環境、育児で困っていること・心配事等を把握したあとに施術を勧め、承諾を受けて施術する。父親にインファントセラピーをさせてほしいという母親からの依頼が多く、父親が在宅のときに再訪する場合もある。またファミリーバージョンについても、父親の方が効果を実感されることが多い。三世帯同居の家庭では祖母へ施術が効果的だった

インファントセラピスト養成講座を通しての気づき

実施回数の増加

計画段階では福岡県・東京都・佐賀県でそれぞれ1回ずつ計3回の予定だったが、受講者の希望に合わせての日程設定を行ったことや、高知県からぜひ開催してほしいという要望が寄せられたことにより、4回増やし、計7回の実施となった。

啓発の必要性

保育士や幼稚園教諭自身が「触れられる」ことの大切さを認識していないことがあり、その方たちにはまず本人たちにセラピューティック・ケアの施術を受けて「触れられると心地良く、安心した気持ちになる」ことを体感してもらうことで、インファントセラピーの重要性に気づいていただけた。今後も、インファントセラピーだけでなく、「触れる／触れられる」ことの大切さを知ってもらうための取り組みも合わせて行っていく必要がある。

平成26年度の主な成果と課題、 それを踏まえての今後の計画

ファミリーイベント

平成26年度の主な成果

- 9回実施／計63組 130名の方がご参加、多くのファミリーにご満足いただけた。
- 子どもだけでなく自分たちにもマッサージをしてもらえたり教えてもらえること、また簡単で手軽なので、パパにも自分や子どもにマッサージを覚えてしてもらえることを喜んでいただけた。

平成26年度の主な課題

- 日ごろの育児の悩みを解決するためには、さらにパーソナルかつきめ細やかな対応が必要。
- 対象者である若いファミリーに届く告知方法を取る必要がある。
- 会場には、親子連れが集まりやすく、気軽に立ち寄れる場所を選ぶ。
- 託児サービスの利用と、お母さん自身が癒される時間の提供も必要である。



平成27年度計画

- 「お悩み解決型イベント」であることを大きく打ち出し、年齢別に対応する(見せ方の変化)。
- 託児を受けつけ、お母さん自身がゆっくりと癒される時間を設ける。
- LINEやTwitter等、若いママたちに情報が届くツールの利用と、オンラインで申し込めるシステムの開発。

人材育成(インファントセラピスト養成講座)

平成26年度の主な成果

- 平成26年度は年間目標を超える29名が受講。受講者が各自、勤務先の保育所や幼稚園あるいは子育て支援センターや地域の親子イベント等でインファントセラピーを実践した結果、人材育成を行ったことにより、WAM事業のファミリーイベントと合わせ事業全体を通して162件 491名の方にケアを届けることができた。
- 特に、母子保健推進員や児童相談員など問題を抱えている家庭にパーソナルに接する立場の方が当ケアを修得することにより、人材育成による“後方支援”として、個別訪問など協会の事業としてでは入っていけない部分にもケアを届けることができた。

平成26年度の主な課題

- 受講希望者が受講しやすいよう、日程や開催場所等の選択肢を増やす必要がある。
- 受講後の実践のサポートとして、「実践の手引き」、スキルのフォローアップのための教育用DVDが必要。

平成27年度計画

- 開催地を増やし、福岡・東京のほか、札幌や大阪でも開催する。
- 「実践の手引き」を作成し、受講者に配布。
- 専用の教育用DVDを製作し、受講者のスキルの維持と向上に努める。
- 国家資格は保有していなくても、現在子育て支援に携わり、子育て支援関係の民間資格(タッチケア指導者など)を持っている人に対象者を広げることで、受講者増を図る。

平成26年度 社会福祉振興助成事業 「えがお・むすぶ・プロジェクト」おわりに

つないだ手と手はあったかい。
大好きな人の手は、もっとあったかい。



「夫婦間コミュニケーションの視点からの育児不安の検討～乳幼児をもつ母親を対象とした実証的研究～」(石 暁玲／桂田恵美子、2006年)には、**母親の育児不安の軽減**には、「夫からのサポート」のうち、「妻への援助」(妻が病気や都合の悪いときに夫が送り迎えをしたりする等)よりも「**情緒的サポート**」(育児についての話し合いや妻への愛情表現)や「**家族へのかかわり**」(子どもとのかかわりや家事育児への積極性等)の方が強く働く傾向が明らかである、とあります。また、「夫に支えられ、心の安定をもった育児生活を実現するためには、母親(妻)は**夫婦間コミュニケーション**を介して、**親密な信頼関係**を築くことが重要」とも書いています。

つまり、母親の育児不安の軽減には、夫婦間で良いコミュニケーションが取れ、愛情と信頼で結ばれた良好な関係が築かれていることが重要であるということです。そういう関係に支えられてこそ、母親は、必要な**精神的サポート**を夫から十分に受けることができ、育児を楽しむことができるのです。

核家族で、小さな子どもを世話する機会もなく育った女性が母親となり、初めての経験に戸惑うことばかりにもかかわらず、夫は仕事に追われて子育ては母親に任せきり、親や頼れる人も周りにいない。それでも良い母親になろうと一人で頑張って頑張って、頑張ったあげくに精神的に追い詰められ、虐待に至ってしまう…。増加し続ける児童虐待件数の数字からは、そんな若い母親たちの悲鳴が聞こえてくるようです。

行政でも、児童相談員など専門家による母親の心のケアを行う体制を取るところが増えてきました。しかし、子育て中の母親にとってそれ以上に大切なのは、核家族においては唯一かつ最も身近なサポート源である**夫からのサポート**だと思います。この「えがお・むすぶ・プロジェクト」は、そのために生まれました。

ファミリーイベントに参加していただいた方々からは、その後、「おうちでもやっています」というおハガキが届きました。その中には、「イベント会場では拒否していた4歳の娘。家で私がマッサージをすると、『またしてね♡』と満足気。親子のふれあいも増えた」「(子どもが)喜んでいました。こちらも嬉しく、エネルギーの交流を感じました」という嬉しいお声も。このプロジェクトを通じ、期待した以上の手ごたえを得ることができました。

私たちはこのプロジェクトを通じて、夫婦間の言語的コミュニケーション不足を補う、**言葉がなくてもお互いの愛情や感謝が伝わるコミュニケーションツール**を提供します。パパからママへ、ママからパパへ、手の温もりを通して愛情と感謝を伝えあい、さらに両の手が我が子に優しく愛情を伝える…パパの手とママの手と子どもたちの手がしっかりと結ばれるとき、その絆は、**子どもたちの笑顔**という形で結実します。

現代の育児環境は、残念ながら、一朝一夕には変えられません。けれども、このプロジェクトで一つでも多くの家庭に手の温もりを届けることで、一つでも多くの笑顔が生まれたらと願っています。

独立行政法人福祉医療機構 平成26年度社会福祉振興助成事業
「えがお・むすぶ・プロジェクト」報告書

発行日：平成27年3月25日

発行者：認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会



認定NPO法人

日本セラピューティック・ケア協会

Japan Therapeutic Care Association

[本部] 〒818-0125 福岡県太宰府市五条2-6-1-202

TEL 092-928-1546 FAX 092-555-9401



info@therapy-care.net



http://therapy-care.net



https://www.facebook.com/therapy.care

